



植物は、その土地ならではの 色彩を抱えている。

東郷池を見下ろす丘の上に、その建物は建つ。2005年に
廃校になった桜小学校の旧校舎だ。5年後、校舎は「さくら
工芸工房」となって新しいのちを授けられた。伝統工芸
文化の担い手を育成することを主眼とした施設である。

染色の工房である山口敬子さんの「茜工房」は2階南側の1
室だ。桜小学校時代には理科室だったから実験用流し台の
痕跡などがあって、それが美しい布の風合いをふしぎに引き
立てている。

20代のときから、長く看護師をつづけていた。京都や関東な
ど各地で活躍するが、体調をくずし、退く。「さて、何をしよ
うかしら」。すぐに浮かんだのが染織だった。国鉄(現JR)
マンだった父が趣味で型染めに凝っており、少女時代なじん
でいたのだ。40代後半から師について基礎から始め、懸命
に取り組んだ。ずっと自宅で製作活動をおこなってきた、「さ
くら工芸工房」オープンを機会に独立した工房を得た。化
学染料ではなく、もっぱら草木染めだ。「もちろん化学を否
定するわけではありませんが、自然から色彩をいただくこ
との貴さに心を惹かれています」。二十世紀梨の木や、地元
野花(のきょう)の名産・野花豊後梅の木からも、風趣に富む
色を引き出す。「植物はその土地ならではの色を抱えている
のです」。体験教室などで、日本人の豊かな色彩感覚を広く
伝えていきたい。茜工房の「茜」は、東郷池を照らす夕日の色
である。大好きな色だ。

茜工房

山口敬子



ゆ
う
ゆ
う、
ゆ
り
は
ま